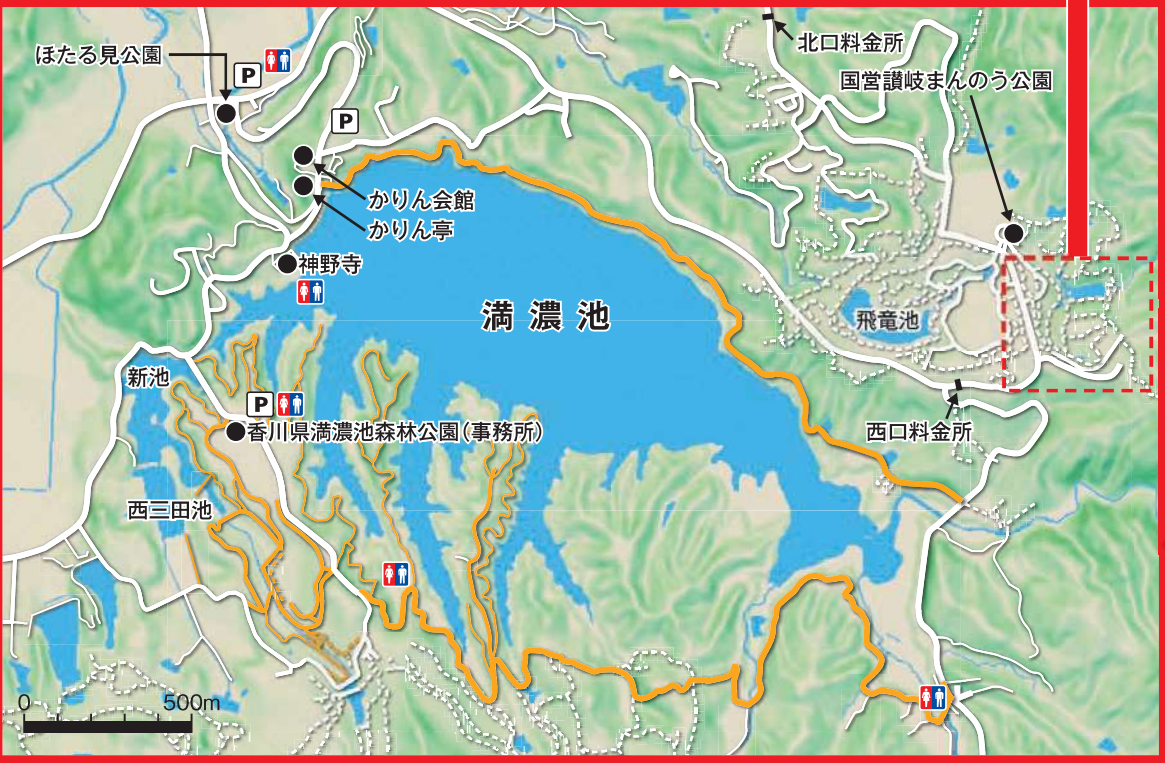




ため池の哺乳類

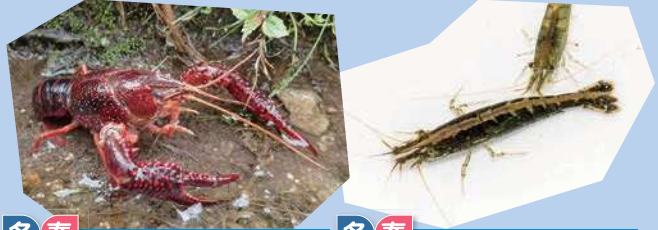
コウモリ類にとってため池の上空は飛ぶ昆虫を捕食する夜の狩り場であり、導水路のトンネルはその休憩所になる。特定外来生物ヌートリアはため池の堤体に巣穴を掘る。すでに香川県の島しょ部には海を渡って侵入しており、農作物を害害している。



冬 春 **秋 夏** **キタガシラコウモリ**
頭胴長55～82mm、前肢長52～65mm。複雑な翼の形が特徴。香川県ではため池導水路のトンネル、河原や人工洞穴などに、また家庭の納屋や天井でも生息。甲虫や蛾、ハエなどを食す。

ため池の甲殻類

テナガエビ類やヌシエビ、ヌマエビ類などの在来淡水エビが生息する。外来種のアメリカザリガニも生息し、大きな問題となっている。



冬 春 **秋 夏** **外アメリカザリガニ**
体長8～12cm。ウシガエルの餌として移入された。香川県の平野部、島嶼部に広く生息し、小魚や水生昆虫、甲殻類、水草など何でも食べるため、生態系に大きな影響を与える。

冬 春 **秋 夏** **ミナミヌマエビ**
体長20～30mm。香川県ではため池や河川の上流域に生息しており、水草が多い場所を好む。雑食性で、藻類や水生昆虫の死骸など、有機物を何でも食べる。

ため池の淡水産貝類

23種の淡水産貝類の記録があり、うち1種は香川県では絶滅したと考えられている。ため池に生息する在来種のうちの半分以上は、絶滅の危険性がある。



冬 春 **秋 夏** **マルタニシ**
殻長約6cm、殻幅約5cm。香川県では中讃地域を中心に豊前市、三豊市、高松市、小豆島のため池やその周辺の用水路に生息している。用水路の改修やスクリンゴガイの侵入の影響で減少している。

冬 春 **秋 夏** **スクリンゴガイ**
殻長約5cm、殻幅約4cm。食用として移入された。産卵されたものが絶滅され、香川県の水田・ため池を中心に広く拡散・定着している。稲の面を食べるため、農家に深刻な被害が出ている。

冬 春 **秋 夏** **ドブガイ** (左:ヌマガイ、右:タガイ)
殻長10cm以上に達する。香川県ではため池に広く生息し、かつては人間の食料となっていた。道伝子などの分類研究が進み、大型で殻高が高く丸型のヌマガイと、小型で殻長が長く細長型のタガイとに分類された。

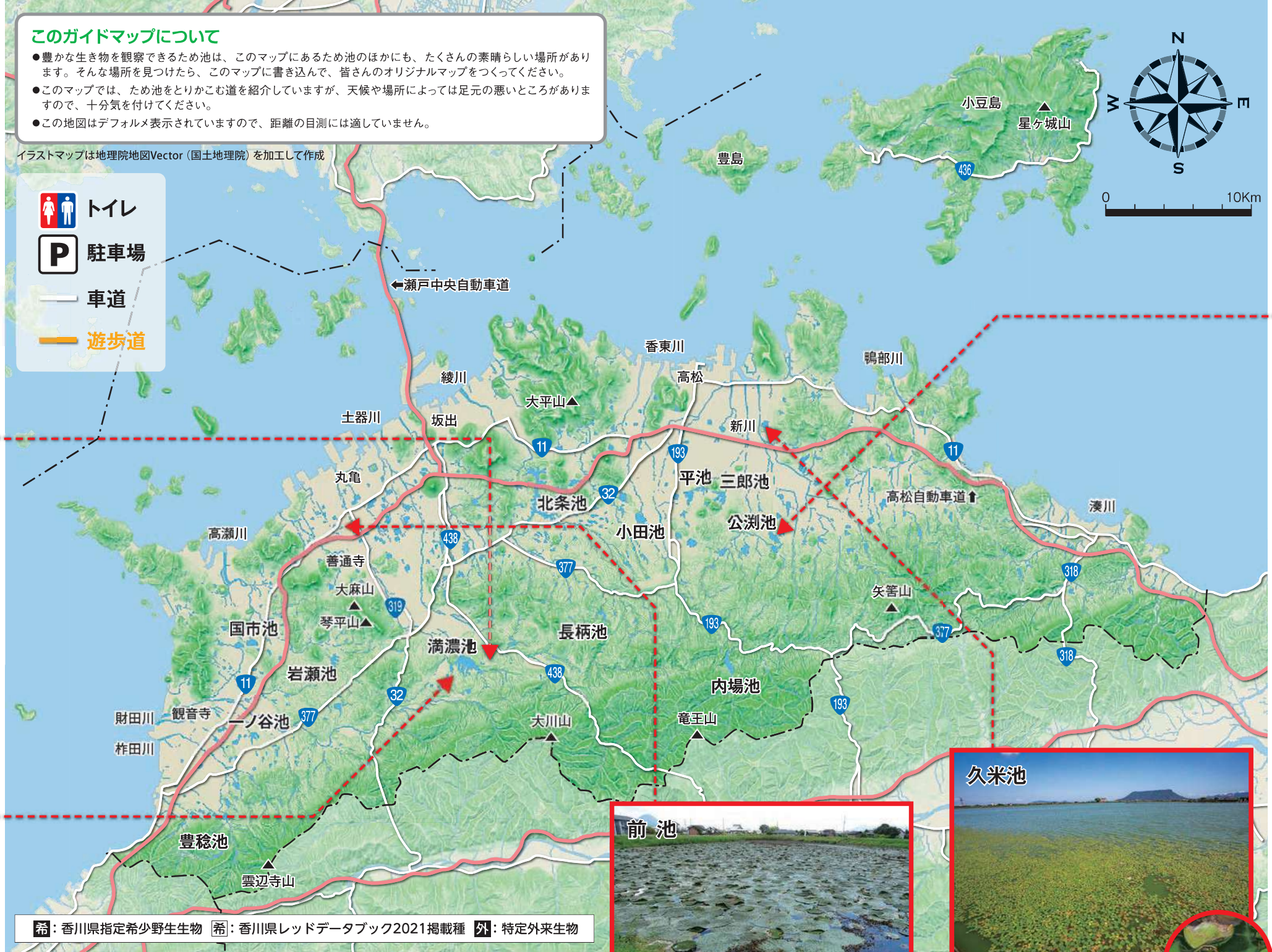
冬 春 **秋 夏** **ヌートリア**
頭胴長50～70cm、尾長35～50cm。軍用の毛皮獣として養殖され、戦後に野生化。香川県では小豆島や豊島、直島、本島、広島、手島、小手島に侵入し、近年は本土側にも確認記録がある。後足には水かきがあり、水辺の植物、貝などを食す。

冬 春 **秋 夏** **シマヒレヨシノボリ**
全長約6cm。通し回遊魚だが、香川県ではため池で一生涯を過ごす陸封型が存在する。本種はドブガイにとって必要な宿主(幼虫がヒレに寄生)であり、更にドブガイはニッポンバラタナゴの産卵床となるなど、命がけでつながっている。

冬 春 **秋 夏** **ニッポンバラタナゴ**
全長約5cm。香川県では高松地域と東讃地域の里山にある小さなため池とその下流河川に生息する。メスは、ドブガイやヒレエビのえらの中に卵を産む。

冬 春 **秋 夏** **オヤニラミ**
全長約10cm。香川県では中讃地域にある河川の中・上流域とため池のヨシが生える岸の深みに好んで生息する希少種。昆虫やエビ、小魚を食べる。

冬 春 **秋 夏** **ウキゴリ**
全長約10cm。通し回遊魚だが、香川県ではため池で一生涯を過ごす陸封型も稀に存在する。甲殻類や水生昆虫など口に入るものなら何でも食べる。



冬 春 **秋 夏** **久米池**
多年生の浮葉植物。香川県では久米池は県内で唯一の自生地となっている。以前は他のため池や還田にも生育していたが、近年のため池の改変や水質悪化によって消滅した。

冬 春 **秋 夏** **アサザ**
多年生の浮葉植物。香川県では久米池は県内で唯一の自生地となっている。以前は他のため池や還田にも生育していたが、近年のため池の改変や水質悪化によって消滅した。

冬 春 **秋 夏** **ヒシ**
一年生の浮葉植物。かつては香川県のため池の代表的な水草であったが、富栄養化や水質悪化によって生育できないため池が増加した。生育の一方で、近年、高松市を流れる香川川では大量繁殖して問題となっている。

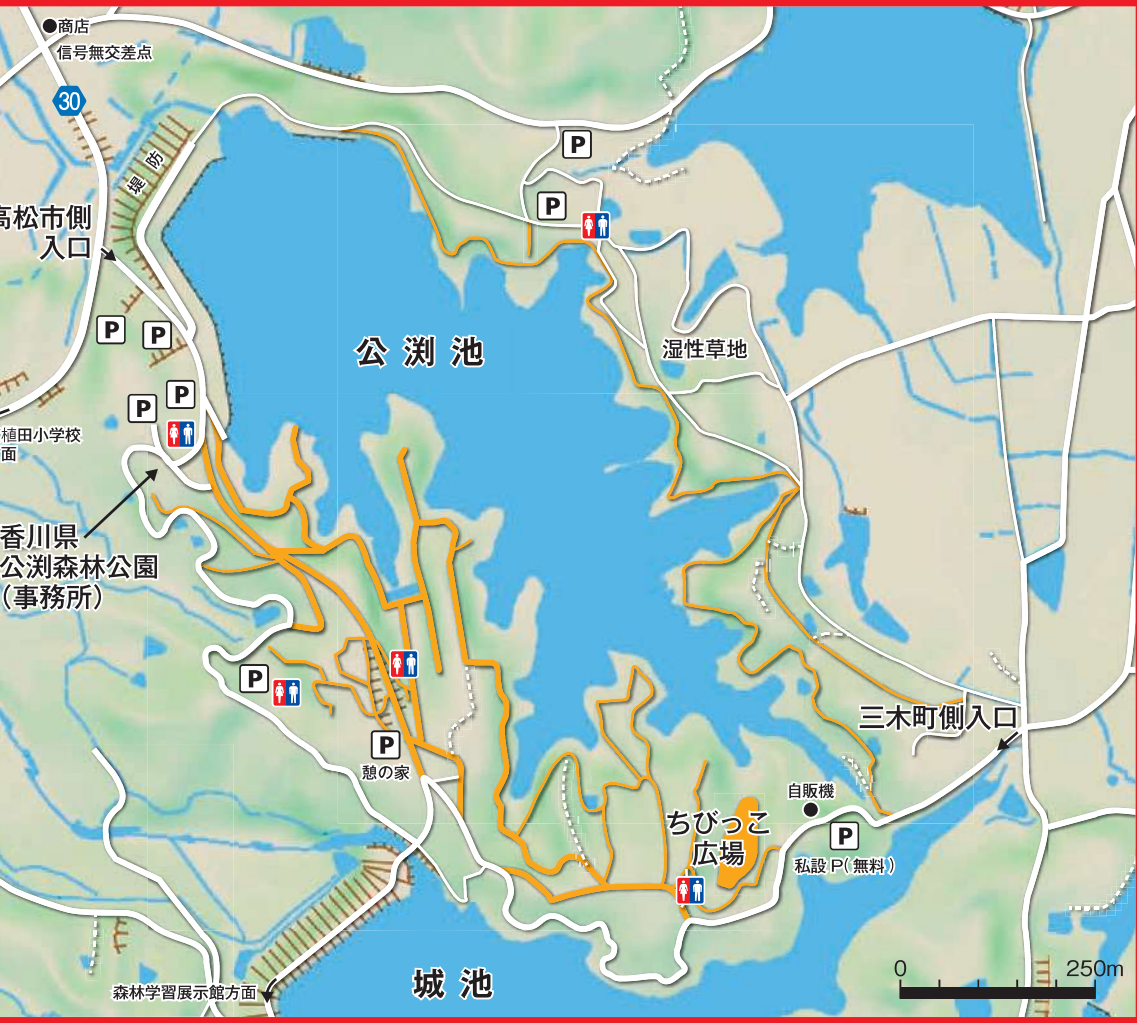
冬 春 **秋 夏** **ヤナギスズナ**
一年生の浮葉植物。山地から丘陵部の透明度の高い農業用水のため池に生育する。香川県の生育地は限定され、生育環境の悪化や水質の悪化で減少している。

冬 春 **秋 夏** **ミズオオバコ**
一年生の浮葉植物。香川県では平野部から山地部のため池等に広く生育する。ため池や用水路の改変、都市化、水質悪化等によって、香川県では近年減少しつつある。

冬 春 **秋 夏** **ガガバタ**
多年生の浮葉植物。やや富栄養化した平野部から丘陵部にかけてのため池に生育する。香川県では、かつては普通に見られたが、ため池の改変や水質の悪化によって少なくなった。

冬 春 **秋 夏** **イトモ**
多年生の浮葉植物。香川県では平野部から山地部の半日陰のため池や河川、用水路に生育する。ため池や河川の改変により生育地が消失し、ヒルムシロ属の他種との交雑で雑種化が起きている。

冬 春 **秋 夏** **イトモ**
多年生の浮葉植物。香川県では平野部から山地部の半日陰のため池や河川、用水路に生育する。ため池や河川の改変により生育地が消失し、ヒルムシロ属の他種との交雑で雑種化が起きている。



ため池	所在地	水鳥	鳥類	トンボ	備考
逆様池	仲多度郡まんのう町炭所西	○	×	○	国営讃岐まんのう公園内
満濃池	仲多度郡まんのう町神野	×	○	○	日本最大のため池
公測池	高松市東植田町	○	○	○	公測森林公園内
前池	善通寺市稲木町	○	○	○	オニバス生育地前池保護区：善通寺市天然記念物にも指定
久米池	高松市新田町	○	○	○	アサザ生育地久米池保護区：県内唯一のアサザ自生地

ため池の鳥類

ため池、および堤体やその周辺の草地は、様々な鳥類が利用する環境の一つで、餌場、水飲み場、ねぐら、繁殖地などになっている。貯水時と池干し時では、利用する種類が大きく変化する(表面のため池の鳥類を参照)。

冬 春 **秋 夏** **キツブリ**
全長約26cm。香川県では、ため池や流れの緩やかな河川の水面に生息し、潜水して魚類、昆虫、甲殻類、貝類などをとらえて食べる。写真のように、水上に水草で巣をつくる。

冬 春 **秋 夏** **コチドリ**
全長約16cm。香川県では主に夏に飛来するが、越冬個体も確認されている。ため池や水田、川辺などの水辺でユスリカ類の小型昆虫やミズミズを食べる。

冬 春 **秋 夏** **キンクロハジロ**
全長約43cm。香川県では冬季にため池や河川等に飛来する。雑食性で、写真の個体のように貝類を捕食し、その他小魚や水生昆虫等も食べる。

冬 春 **秋 夏** **カワウ**
全長約82cm。香川県ではため池や河川、海等に生息する。潜水して魚をとらえて食べる。一時的に飛来したが、近年は個体数が減って鳥害被害が出ている。

冬 春 **秋 夏** **コウノトリ**
全長約112cm。香川県ではため池や湿地等の水辺で生活し、魚やカエル、ヘビ、昆虫などを食べる。1971年に国内で絶滅したが、その後の野生復帰事業により個体数が増え、2023年からまんのう町でも繁殖するようになった。

冬 春 **秋 夏** **パン**
全長約32cm。香川県ではため池や河川等に生息し、ため池で繁殖することもある。雑食性で、水際や浅い水草の上を歩きながら、昆虫や甲殻類、植物の塊などを食べる。

冬 春 **秋 夏** **オオアメンボ**
体長20～25mm。香川県ではため池や河川上流域のよどみに生息しており、薄暗くなった場所を好む。日本産アメンボの最大種で、水面に落下した昆虫等の残骸を食す。

冬 春 **秋 夏** **コバネナゴ**
体長30～40mm。全国の水田や水田周辺の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。

冬 春 **秋 夏** **コバネナゴ**
体長30～40mm。全国の水田や水田周辺の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。

冬 春 **秋 夏** **コバネナゴ**
体長30～40mm。全国の水田や水田周辺の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。

冬 春 **秋 夏** **コバネナゴ**
体長30～40mm。全国の水田や水田周辺の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。成虫は幼虫のみに好んで水田の浅い水田に生息する。